

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 千葉大学

## 【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(Ⅱ)))

ツイン型学生派遣プログラム(ツインクル)。

## 【プログラムの目的・養成する人材像】

拠点リーダーとして活躍しうる、グローバルマインド持つ教員と、教育マインドを持つグローバル研究者。

## 【構想の概要】

実践的教育研究に取り組む院生と最先端科学研究に取り組む院生とのカップリングにより「人材開発型」の教育プログラムの構築を行う。バックグラウンドが異なる研究科院生・学部生のツイン型学生派遣による協働促進カリキュラムを作成することで、ASEAN拠点大学での教育・研究活動による学位取得をも可能とする実践展開型授業プログラムを開発する。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ ツインクルコンソーシアムの設立と連携大学の拡大

ツインクルプログラムにおける学生交流の充実を図るために、ツインクルコンソーシアムを設立し、連携大学とプログラム内容について協働的に改善を行った。また、ツインクルコンソーシアム連携大学を5カ国10大学から12大学に拡大した。

### ○ MOAの締結とツインクルプログラムにおける単位の相互認定

ツインクルプログラムの円滑な実施のために、連携大学とMOAの締結を行った。これにより、単位の相互認定方法の確認や本プログラム運営上の双方の役割を明確にした。

### ○ アクティブラーニングによる科学授業の開発

本学の理系・教育の学生がユニットを組み、彼らが、アカデミック・リンク・センター等を活用したアクティブラーニングにより、ASEANの児童・生徒向け科学教材・授業を開発した。理系および教育を専門とする教員をそれぞれ1名ずつ各学生ユニットに割り当て、指導内容と指導方法の両観点から学生の授業づくりを指導する「Wメンター制」を確立した。

〈第3回ツインクルコンソーシアム会議・第2回ツインクル活動成果報告会〉



## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈実験活動を取り入れた科学授業の様子〉



### ○ 科学研究の教材化および授業実践を通じた国際交流

ユニットを組んだ本学学生が、ASEAN連携大学学生との協働を通じて、自らの研究成果を基に授業を開発する。現地では、小・中・高・大の教員と児童・生徒・学生と交流するとともに、学校で英語により科学授業を実施する。

### ○ “双方向”ツインクルの実施

ASEAN連携大学の学生が、日本の小・中・高校において、児童・生徒に向けて授業実習や課題研究へのアドバイスを行う。この活動を通して、日本への理解を深めるとともに、若い世代同士の関係作りを促し、将来に渡るパートナーシップを形成する。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

平成24年度はトライアルコース(2週間)のみ39名で実施した。平成25年度はプログラムを拡大し、トライアルコース59名、ショートコース(1ヶ月)14名、ロングコース(3ヶ月)3名の計76名を派遣した。平成25年度は、政治情勢によりタイ派遣を中止したが、インドネシアを代替地として実施した。

### ○ 外国人留学生の受入れ

平成25年度は、84名(91人月)の学生受入れを実施した。平成26年度以降も、双方向ツインクルを実現するために、最大100人月に拡大して受入れを計画している。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	39	76	84	84	84
学生の受入	0	84	20	20	20

注) H24・H25は実績、H26以降は計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 千葉大学IECオフィス専任スタッフと特任助教による支援体制

ASEAN拠点大学に配置されている千葉大学IECオフィスの専任スタッフと連携し、現地でのサポート体制を強化した。学生派遣期間は、特任助教がASEANにおいて、学生の教育および生活指導を実施し、安全の確保と支援の充実を図った。

### ○ ツインクルオフィスとInternational Support Desk (ISD)との連携によるツインクル学生交流の全学推進

留学生の生活面でのサポートを充実させるために、ツインクルオフィスとISDが連携し、留学生の受入れに関する学内体制を構築した。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及 <http://www.twinkle.jp/>, <https://www.facebook.com/twinkle.educ?fref=ts>

### ○ シラバスの公開、ホームページ・facebook・twitterによる活動内容についての情報発信と参加学生間の交流促進

本プログラムの修了要件およびシラバスを、印刷物およびホームページで公開しており、透明性を確保している。facebookやtwitterにより活動内容について情報発信している。これらは、本学学生とASEAN連携大学学生の交流の場ともなっている。